

天に祈願する

グルマールイとのシッダ・ヨーガ・サツツァング

2020年1月3日金曜日

2020年1月3日金曜日、グルマールイとのシッダ・ヨーガ・サツツァングがシュリー・ムクターナンダ・アーシュラムで行われました。サツツァングは米国東部時間の11時半から午後1時まで行われ、その目的はただ一つ、オーストラリアのために雨という形の祝福を祈願することでした。

ここ数カ月、オーストラリア各地の単独の森林火災と見られたものは、広範囲の大火災へと拡大し、地域の人々や植物、野生動物を危険にさらしています。これらの火災は長期の日照りにより、いっそう悪化しているのです。

このような惨事——特にこれほどの規模のものに——直面した時、自ずと人々は、自分には何ができるのかと思いを巡らせます。どのような手助けができるのか。状況を改善させるためのどんな力を自分は持っているのか。シッダ・ヨーガの道では、私たち皆ができる一つのこと——世界のどの場所にしようと、あるいは自由に使える資産があるろうとなかろうと——それは祈りであるとグルマールイは教えます。私たちは祈りをささげることができ、祝福を送ることができます。サツツァング、そしてシッダ・ヨーガの修行を行うことには、この惑星とそこに住む人や生き物にとって有益な計り知れない力があります。多くの人々がそれぞれ個人的に祈りと祝福を送ってきました。しかし、集合的な意図の力ほど特別なものではありません。これが、グルマールイが皆に力を結集させるよう求めた理由です。

グルマールイの要望により、1月3日のサツツァングでは、メーグ・マルハール・ラーガで作曲された音楽が鳴り響きました。これは、雲を自然に集め、純粹で清浄な水を下界に降り注がせるラーガです。

グルマーイは、バジャン、「ジャリ・ラーガイ・メーヘーリヤー・ガガナ・ゲーヘーラーイ」を歌い、それを参加者たちは一心に聞き、歌に加わりました。詩聖ダルマダスによって書かれたこのバジャンは、内なる空に甘露を注ぐ雨雲のイメージを描いています。グルマーイは 1997 年、オーストラリアへの教えの訪問の際、シドニーでこのバジャンのための音楽を創りました。彼女はメーグ・マルハール・ラーガで作曲したのです。

バジャンの後に、グルマーイは皆を、きらめく優しい雨が降り注ぐのを想像すること、この雨が焼けている土地を癒やすのを想像すること、一つ一つの火花が水へと変わり、水分できらめく様子を想像することに導きました。グルマーイは皆をオームを歌うことにいざない、そしてこの原初の音が周囲全体に脈動する中で、参加者は雨を降らせる楽器を奏でながらサツァングホールを歩き回りました。

その瞬間ははっきりと分かりました。人々の意図と想像したものが、宇宙そのものから湧き起こるオームの音の力と結合して、本当にオーストラリアとニュージーランドに向かって行ったのです。その体験は筆舌に尽くし難いほど見事でした。それはまるで、オーストラリアが苦悩から解放されることを強く願う世界中のすべての人をサツァングの参加者が代表しているようでした。

スワーミ・アカンダーナンダは、オーストラリアの大地に優しい雨が豊かに降るというダーラナーで、皆を瞑想に導きました。メーグ・マルハール・ラーガの響きが共に奏でられ、このダーラナーに靈感をもたらしました。

次にオーム・ナマー・シヴァーヤ——シッダ・ヨーガの伝統のマントラ、守護のマントラ、シッダ・ヨーギたちが祈りをささげ祝福を送るために歌うマントラ——をチャンティングしました。それは同じ、メーグ・マルハール・ラーガでした。マントラを繰り返すごとに、このラーガのラサ——その強さと深い幸福の属性、雨を呼び起こすこと——が、さらに明らかになっていきました。皆の声で、音楽のうねりが満ちては引きました。参加者たちは、影響を受けている土地に雨が降り注ぐイメージをそれぞれの意識の中に持ち続けました。チャンティング、そしてサツァング全体が、集合的な意図の力の驚くべき例証となりました。

そして今、このサツァングの幾つかの要素を、シッダ・ヨーガの道のウェブサイトで実践することができます。世界中のサンガムの誰もが、オーストラリアに祈りと祝福を送ることに加わり続けることができます。

覚えていてください。私たちは一つの人類です。私たちは互いにつながっています。私たちは平和の時に、そして惨事の時に、一つになるべきです。私たち自身の一体性の意識を奮い立たせるべきです。

覚えていてください。私たちは一つの地球です。ですからもしこの地球の一部が傷ついているなら、それは重大なことです。私たち誰もがそれを感じるでしょう。私たち誰もが自分の心の善良さを届ける方法を見つけたいと思うでしょう。



© 2020 SYDA Foundation®. 著作権所有。